

IAUD Newsletter vol.4 第01号 (2011年 4月号) 目次

1. IAUD アワード 2010 優秀賞: 公共交通利用における移動支援情報の提供システムモデル構築
「駅のバリアフリー情報を分かりやすく」 1
2. 世界のUD 動向: Design for All 財団 2010 年アワード授賞式
「平成 22 年度キッズデザイン製品開発支援事業」成果公表 ほか 6

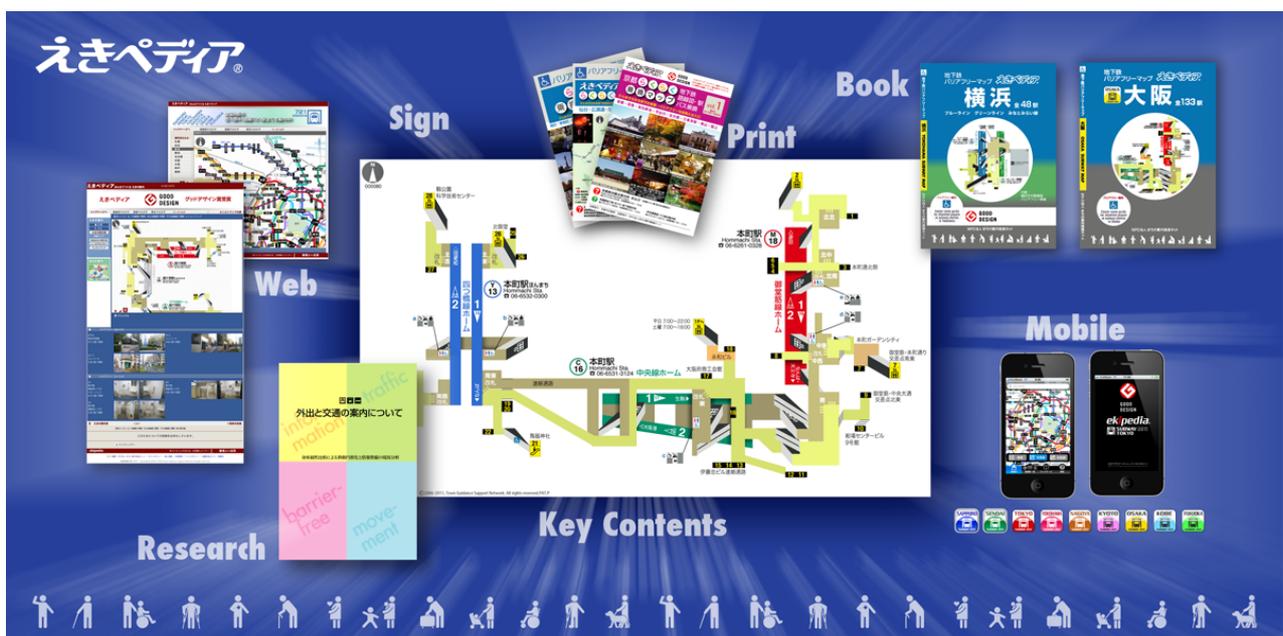
東日本大震災の被災による影響は少しずつ落ち着きを取り戻しつつあるようにも見えます、しかし、避難生活や復興に向けた動きなど、被災現場の様子はますます多様化し、相当の月日を要する状況が明らかになってきました。今後、復旧から復興へ、そして次世代を見据えた新たな再生という次のフェーズに向かいます。被災された皆さまやご家族の方々に心よりお見舞い申しあげつつ、IAUD としても幅広い業種・業態の会社・団体・個人が集まった組織の特長や専門性を活かし、災害復興に対して UD ができることや新たな街づくりの UD など、IAUD が考えるべき課題に関して、中長期的な視野で継続した支援策を考えていくことが必要と思います。

IAUD では新たな組織体制や次の中期活動計画、研究部会の活動方針などの検討が進んでいます。2011 年度から成川匡文理事長の後任として(株)リコーの小島文代理事が理事長を務められます。また空席となっていました副理事長には(株)岡村製作所の西村澄夫理事が就任されました。新体制での活動方針などの詳細は、来月号から追ってご紹介していきます。

今月号は、昨年の国際会議でも発表されましたが、IAUD アワード 2010 を受賞された IAUD 会員の取り組みを、会議に参加されなかった皆さまにも改めてご紹介します。

IAUD アワード 2010 優秀賞:

公共交通利用における移動支援情報の提供システムモデル構築 「駅のバリアフリー情報を分かりやすく」



東日本大震災により被災されました方々に、心よりお見舞い申し上げます。そして穏やかな日常が取り戻せるよう一日も早い復興をお祈り申し上げます。

● はじめに

国内主要都市の公共交通機関において、エレベータやエスカレーター、トイレなどバリアフリー施設整備の進展にはめざましいものがあります。しかし、これらの施設を利用するための案内は充分なのか、また乗換えや、出口への案内や誘導などは分かりやすいものとなっているのか、これらの問題に視点を置いて、2006年NPO法人「まちの案内推進ネット」を立ち上げ、新しい提案、展開をすすめてきました。

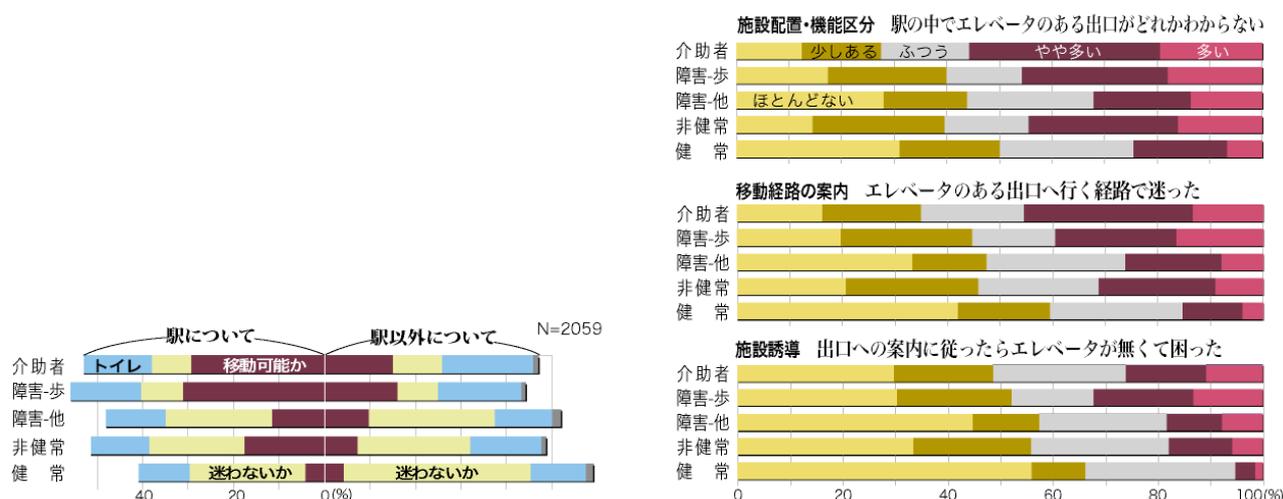
私たちが推進しているプロジェクトはユニバーサルデザインに基づく交通案内の情報コンテンツの構築、ウェブサイトをはじめとした各種メディアでの展開、さらには案内情報提供における標準化へのアプローチです。これらは障がい者の外出への自立支援だけでなく、すべての利用者にとっても便利で役立つものと考えています。

このたび IAUD アワード優秀賞の受賞により、プロジェクトへの評価をいただき、大変嬉しく光栄に思っています。現在は地下鉄への案内が主ですが、今後はターミナル駅や他の交通機関へと広めていきたいと考えています。

また今回の震災直後に、iPhone アプリの仙台地下鉄案内「えきペディア・SENDAI」を無償提供いたしました。地下鉄利用者や被災地ボランティアに向かう人々への一助になればと願っています。

● アンケート調査からの出発

私たちの地元である大阪府下で、「外出と交通の案内について」のアンケート調査を実施しました。対象者は健常者から障がい者、介助者、高齢者に至るまで幅広く、公共交通の利用について、その案内情報提供の問題点と改善に向けての課題を把握することを目的としました。分析結果をバリアフリー化の状況、エレベータやトイレなどの案内情報、駅での移動と迷いの発生実態など、「調査レポート2006・身体属性による移動円滑化と情報整備の現状分析」として冊子にまとめました。(<http://www.annai.or.jp/project/enquete.pdf>)

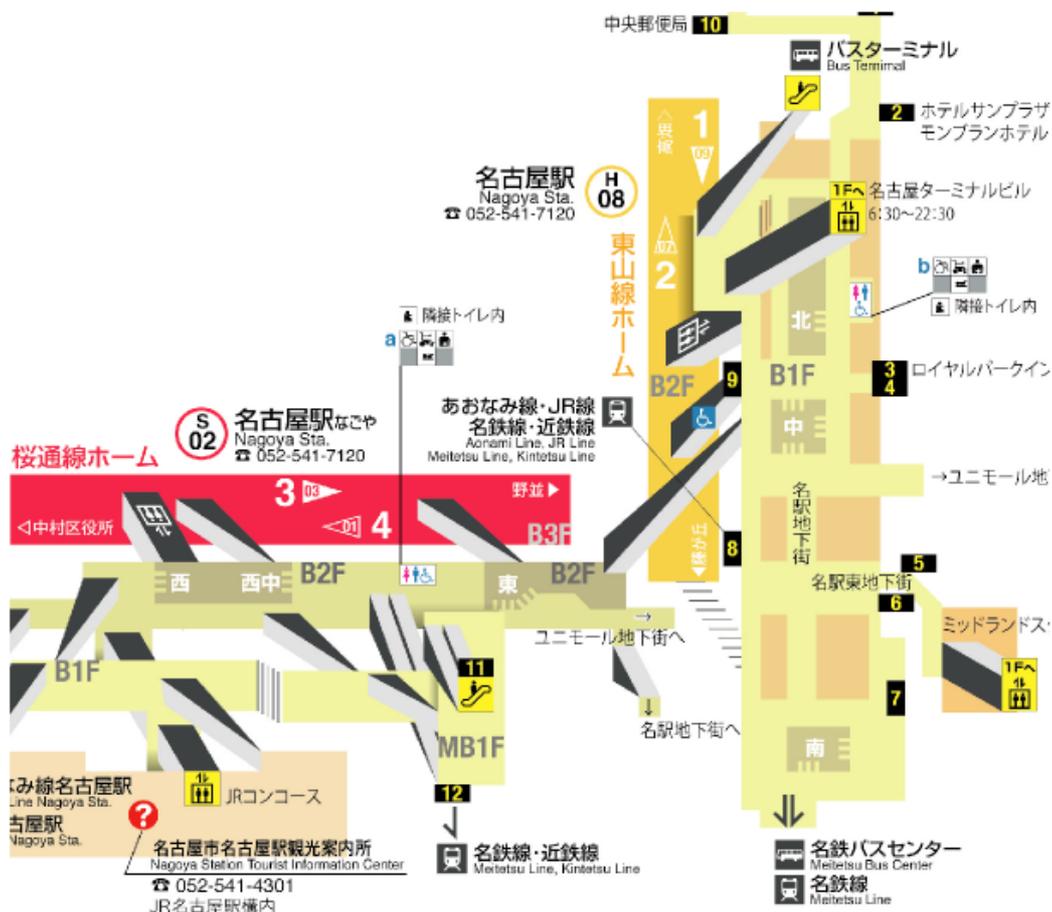


この調査から、鉄道では地下鉄で迷いやすく、それは駅空間の認識の難しさに起因することがわかりました。さらには介助者が健常者に比べよく迷うという結果から、バリアフリーな経路の案内の未整備であると判明しました。また、外出前に利用する駅についての案内情報を得にくいという状況、特に障がい者や介助者では、利用できるトイレがあるか、移動が可能かどうかの情報入手は、外出に際しての切実な問題となっていました。行き先駅の様子や経路のわかりやすい案内の改善は、身体属性によらず共通して期待されていました。

●案内コンテンツのための基本マップ開発

私たちはまず、駅の移動空間を分かりやすく表現する駅案内図の開発に着手しました。都市や利用する鉄道が異なっても、統一的な表現があれば、利用者は案内をより理解しやすくなります。そのためには様々な駅の形状や空間構造の表現、重要な移動経路をわかりやすく提示するデザインであること、さらには様々なメディアに支障なく活用できることも機能として求められます。ユニバーサルデザインを基本とした、シンプルで明快な駅案内図を“らくらくマップ”と名付け、まず地下鉄駅のマップを制作しました。

真上からの立体的な俯瞰デザインにより上下の階層、前後左右の方向が理解しやすく、交差する駅を一図にまとめることにより乗換への移動を分かりやすくしました。またエレベーターやエスカレーターなど経路空間を簡明に表現することで、バリアフリーな出入口やトイレを見つけやすくしました。障がい者の利用に重点をおきながらも高齢者や小さな子供連れ、さらには全ての人にとっても、利用しやすいものとなっています。



●インターネットでの情報提供

地下鉄のある9都市、東京・横浜・大阪・名古屋・札幌・仙台・京都・神戸・福岡の地下鉄事業者に情報提供の協力を求め、現地での調査や撮影を実施、2年を費やして全721駅の“らくらくマップ”を完成させました。

インターネットで情報提供をするにあたり、地下鉄路線図と全駅の“らくらくマップ”、バリアフリートイレや出入り口の写真、周辺地図を入れたコンテンツを「えきペディア」として公開しました。これにより、外出前に利用駅の情報を得ることができ、プリントを持参すれば駅でのバリアフリーな移動がスムーズになる効果が期待できます。またサイトには投稿欄があり、利用者からの情報が反映されるようになっていきます。駅の改修にともなう情報更新は継続して実施、現在サイトへは行政や交通事業者、障がい者団体や一般企業など数多くのリンクが貼られ活用されています。



「えきペディア」
<http://ekipedia.jp/>

●「えきペディア」コンテンツについて

「えきペディア」コンテンツは、色覚異常への対処などデザイン面の改善も進めながらインターネットだけでなく、印刷物への展開として活用しています。これまで地下鉄バリアフリーマップとして大阪・横浜の冊子、大阪・京都・仙台のリーフレットなどを発行しました。

また新潟国体、アジアユースパラゲームズや食博覧会など、イベントのアクセス案内としても利用されました。さらに iPhone など携帯端末アプリでの販売や外出に関わる他のアプリとの連携などに活用されています。バリアフリー情報がさらに普及するためにも「えきペディア」コンテンツの利用を広げていくことも重要であると考えています。



● ターミナルにおける案内の連携へ

“らくらくマップ”の表現形式を反映させたターミナルマップとして、東北運輸局より仙台駅周辺を中心としたバリアフリーマップ作成を受託。JR仙台駅から歩行者デッキや地下通路を経由して、バスプールや地下鉄、JR他線への経路を一図にしたターミナルマップを作成、印刷物として配布されました。制作途中には、現地でマップ携行と不携行の場合の比較実験を行い、このマップの利用により移動経路がわかりやすいことを実証しました。

ターミナルのわかりにくさは各都市に共通する課題です。改善するためには、隣接する施設の案内に共通性を持たせ、案内を連携させること、私たちは仙台ターミナルマップのデザインで使用したような現況の案内システムを補完する方策が有効と考えています。



http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/kk/1004tth/kk-sub005_01.htm

● 今後について

東日本大震災による被災経験をふまえ、いかなる時や場所においてもユニバーサルな施設と情報を提供できるシステムを構築することが求められています。高齢者や障がい者、子供など社会的弱者だけでなく、国内外からの来街者も含め、全ての人々にとって安全で安心な外出のための案内、公共交通機関や施設におけるバリアフリー情報の整備と提供をより一層推進していくことが私たちの使命と考えています。

公共性の高い駅やターミナルだけでなく、災害等非常時に利用する避難施設へのバリアフリー情報など、取り組むべき対象と課題は山積しています。行政だけでなく、市民・市民団体や企業が一体となった取組を進めるため、皆様と協働してユニバーサルな社会実現に向けて邁進して参ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

世界の UD 動向

■ Design for All 財団 2010 年アワード授賞式 (同財団ニュースレターより)



2011年2月24日、Design for All財団が主催する2010年アワードの授賞式が行われました。このアワードは同財団が“Design for All”をコミットし実践、促進している企業、団体や行政を顕彰することを目的として設立したもので、今回は2回目となります。授賞式はスペイン・バルセロナ市において、同財団の10周年を祝うアニュアル・ディナーのなかで行われました。

授賞式には、アワードの候補となった企業や自治体だけでなく同アワードに興味を持つ団体も出席し、財団が取り組む現在から将来にむけてのプロジェクトが紹介されました。また、“Design for All”で優れた活動をしている都市や、製造プロセスやサービスで優れた実践を行った企業に対し、推進者として認定証が手渡されました。

授賞式では、今年、変化・進展したところは、財団の国際的な専門家からなる審査委員会から出された高い要求レベルに対し、対象候補の品質は傑出していたことであり、このアワードにより企業の努力を認証すること以上に、人の多様性を尊重した世界中の環境や製品、サービスなどの実体が、ベスト・プラクティスとして規範となり、インスピレーションの源となって生活の質を向上させることを切望していると伝えられました。大きく期待が膨らむ雰囲気の中で、各カテゴリの受賞者が審査委員会から発表され、賞状とトロフィーが手渡されました。

各カテゴリの受賞者と候補者は以下のとおりです。

<企業部門>

受賞者：ランドスケープ・ストラクチャー社（米国） <http://www.playlsi.com/>



同社はすべての子供が楽しめる遊び場のユニヴァーサルデザインに取り組んでいます。包含性のレベルをより高めるための3つのコンポーネントとして、身体的アクセシビリティ、年齢や発達への適応性、感覚を刺激する行動、という要素を組み合わせ、同じ場所にいる全ての子供のニーズに合った、遊ぶ環境を創り出しています。より包含性の高い遊び場は、子供たちを平等に、共に遊び、想像する能力を、遊びを通して培います。

<公的団体・行政部門>

受賞者：マラガ市議会（スペイン）



<http://www.malaga.eu/opencms/opencms/aytomalaga/portal/portada/portada>

マラガ市は15年前から、あらゆるグループの参加を強化することをポリシーとして、アクセシビリティを必須の要素とするために効果のある活動に取り組んでいます。例としては、2004年にアクセシビリティ条例制定、2007年ユニヴァーサルアクセシビリティ部門設置、2007～2011年マラガ市アクセシビリティ戦略、2005年障害者団体50団体の参加を保障したマラガ市アクセシブル開発パートナーシップ、街の通りや市の施設・サービスにおいて身体的なおよびコミュニケーションのバリアをなくす計画、信号システムの点字情報、ウェブカメラ、案内ビデオ、サインや字幕付けなどがあります。

<NGO部門>

受賞者: バスキン(イタリア) <http://www.baskin.it/>



「バスキン (Baskin)」と名づけられた新しいスポーツ競技は、従来のバスケットボールを、人の身体的およびメンタルな能力の多様性に最大限の注意を払い、根本的に誰でもが一緒に参加できるよう、変化させたものです。バスキンはイタリアで2010年に国民のスポーツとして、まさに全ての人のためにデザインされ、すでにあるスポーツに人が合わせるのではなく、スポーツを人のためのものとして作りあげたものです。

最先端の文化的マトリックスをベースにした教育工学の成果として、この革新的なスポーツのモデルは、画一的なスポーツ経済をグローバルに再構築し、21世紀のより人間中心のスポーツの先取りとして期待されています。



企業部門受賞者



公的団体・行政部門受賞者



NGO部門受賞者

■「平成22年度キッズデザイン製品開発支援事業」成果公表

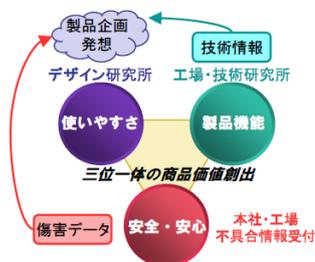
経済産業省では平成22年度より、持続可能で安全・安心な社会の実現に向けて、子どもの事故予防に配慮された設計・デザインによる製品の開発を、産業界が積極的かつ持続的に推進していく体制を構築し、キッズデザインによる製品市場の拡大を目指して「キッズデザイン製品開発支援事業」を実施しています。

このたび、本事業により研究機関と企業が共同で行った研究(共創プロジェクト)の成果が公表され、以下の19プロジェクト(15社・団体)について、業種横断的にキッズデザイン製品の開発に利用可能なデータや技術が公開されています。(キッズデザインシンポジウムを3月25日開催し内容を発表する予定でしたが、震災の影響で中止となりました。)



共創プロジェクト名(申請者)

- ① 「チャイルドロック」設計のための子どもの操作能力の調査
(NPO キッズデザイン協議会)
- ② 家電における、安全安心情報を取り込んだ開発の「しくみ」構築と製品化研究 (三菱電機株式会社)
- ③ 子育て賃貸住宅評価基準の設定 (ミサワホーム株式会社)
- ④ 子ども用イスの安全性及び適合性の評価手法の確立(三惠工業株式会社)
- ⑤ 自転車の挟まれ事故(スポーク外傷)の防止に関わる子供の身体データ及び動作の評価、解析
(株式会社ブリヂストン)
- ⑥ 自転車走行中における転倒事故防止に関わる子どもの身体データ及び動作の評価、解析 (//)
- ⑦ 自転車停止中における転倒事故防止に関わる子供の身体データ及び動作の評価、解析 (//)



- ⑧ 散歩車（および避難車）の安全性調査（株式会社フレーベル館）
- ⑨ 次世代エスカレーターに向けた要素技術研究
（東日本旅客鉄道株式会社 JR 東日本研究開発センター）



- ⑩ 子供向け屋内遊戯施設における遊具の安全推進プロジェクト
（株式会社イオンファンタジー）

- ⑪ 遊具の安全性を高めるための衝撃吸収特性に関する調査
（大永ドリーム株式会社）



- ⑫ 隙間・穴に対する安全基準やチェックリストの作成（株式会社 INAX）
- ⑬ 角・稜線に対する評価方法の策定及び安全基準やチェックリストの作成（〃）
- ⑭ 事故未然防止・商品開発時の基盤となる子どもの行動特性データの蓄積（〃）

- ⑮ 角等の性状に関する衝突安全性評価方法の研究（住友林業株式会社 住友林業クレスト株式会社）
- ⑯ 子どもの転倒時のデータ収集と、衝撃吸収性能を備えた床における転倒衝突時の子どもへの影響についての検証（永大産業株式会社）
- ⑰ 人間工学に基づく危険が伝わるデザイン及び注意表示のガイドライン作り
（株式会社ベネッセコーポレーション）

- ⑱ 日本小児科学会雑誌 Injury Alert 事例の分析（社団法人日本技術士会）
- ⑲ 保育所・幼稚園における遊具による事故の分析（独立行政法人 日本スポーツ振興センター）

各共創プロジェクトの概要および詳しい報告書や調査データ（ユーザー登録必要）については、以下のサイトをご覧ください。

<https://www.dh.aist.go.jp/projects/kd/cocreation2011.php>

・主な成果概要（PDF 資料）

<http://www.dh.aist.go.jp/projects/kd/data/2011/Leaflet.pdf>

「共創プロジェクト」とは

1) 子どもへの安全性に配慮された製品（キッズデザイン製品）の開発や基準策定等のニーズを持った企業・業界団体、2) 分析技術や事故関連データを持った団体、3) 研究機関・データ収集機関などが協働することで、キッズデザイン製品開発に必要なデータや分析技術を整備し、業種横断的にその成果を共有するためのプロジェクト。

募集期間（平成 22 年度）：平成 22 年 5 月 28 日～6 月 25 日

募集内容：・企業や業界団体等が、キッズデザイン製品の開発や基準策定等を行う際に必要となるデータの整備や分析技術に関するニーズとキッズデザイン製品・基準策定等への活用方法
・大規模な事故関連データを保有している機関が、これらのデータをキッズデザイン製品開発のために活用する際に必要となるデータ分析技術や情報発信技術に関するニーズとキッズデザイン製品開発・基準策定等のための活用方法

詳細は以下のサイトをご覧ください

<http://www.dh.aist.go.jp/projects/kd/about.html>

■「UD 先進事例 多様性への挑戦、IAUD 会員の取り組み」電子書籍で販売中！
幅広い領域にまたがるIAUD会員の先進的な取り組みが一冊の本になりました。

本書は、IAUD会員向け月刊誌「IAUD Newsletter」で約2年半の間に掲載された32社・団体の取り組み記事をもとに一冊にまとめたものです。

また、本書オリジナルコンテンツとして静岡文化芸術大学の河原林桂一郎副学長に『企業や社会におけるUDの動向と今後の方向性』と題して書き下ろしていただきました。

UDの原点は多様なユーザーを理解することであり、対象が多様であることは同時にアプローチも多様になりますが、本書は、さまざまなデザイン領域の基本事例として、また企業経営や商品企画にUDやダイヴァーシティの考え方を取り入れるための参考事例としてなど、幅広くご活用いただけます。

なお、発刊当初は、インターネット常時接続の環境でしか閲覧できませんでしたが、iPad版/iPhone版は5回までダウンロードして閲覧することが可能になりました。オンライン書店上では最初の数ページを立ち読みすることもでき、閲覧できるデバイスの発売も相次いでいますので、ますます手軽にお読みいただける状況となってきましたので、ぜひ、一度サイトをご覧ください。



<主な内容>

推薦の言葉：「人にやさしい」からはじまるイノベーション

経済産業省製造産業局デザイン・人間生活システム政策室長 廣瀬 毅

第1章 企業や社会におけるUDの動向と今後の方向性

静岡文化芸術大学副学長 河原林 桂一郎

第2章 UD先進事例（32社・団体）

掲載企業・団体（本書掲載順）：東京電力、パナソニック、富士通、日立、トヨタ自動車、TOTO、リコー、岡村製作所、日産自動車、大日本印刷、東芝、三菱電機、イトーキ、積水ハウス、コクヨファニチャー、INAX、丹青社、博報堂ユニバーサルデザイン、静岡県、リムコーポレーション、東洋インキ、セイコーエプソン、東急車輛製造、ダイワハウス、アップアローズ、浜松市、静岡文化芸術大学、ユニバーサルイベント協会、ヤマハ、ユーディット、NEC、バンダイ

※本書をご購入いただいた方で、視覚障がいやディスレクシアなどの特性により、読み上げ可能なテキストの電子データ（.txt で作成）を必要とされる方にテキストデータをご提供させていただきます。詳しくは本書 巻末の【テキストデータのご案内】をご覧ください。



●本書はオンライン書店 shinanobook.com にてお求めください。

価格：1,890円（定価1,800円＋税）

A5判 256ページ

出版社：株式会社UDジャパン

●問い合わせは 国際ユニヴァーサルデザイン協議会 事務局まで

【編集後記】 ○まず最初に、今月号のボリュームが通常の半分ほどになってしまいました。年度の初めということもあり、新体制での企画検討不足など諸事情が重なり、会員の皆さまへの情報発信サービスが十分にできなかったことをお詫びいたします。

ところで、自分自身で気づかぬうちによく「貧乏ゆすり」をしているようで、これまでは家内から注意されても、それほど気にしていなかったのですが、3.11以降、また余震？と驚かれるので、一緒にいるときは特に意識するようになりました。「直下型」とはいえ、マグニチュードはそれほど大したことないとは思いますが、いつも何となく揺れている感じがしてしまう昨今、できるだけ不安になる振る舞いは注意するようにしています。被災された皆さんとは比べるべくもない極めて些細な変化ですが、震災の影響はそんな普段の暮らしの中の小さな行動にまで及んできています。

もっと現実的に困る変化としては、原発事故の影響で電力不足が深刻な状況になってきました。街中でもさまざまな節電対策が行なわれていますが、先日、視覚障害（弱視）の方と話をする機会があり、これまでは明るかった地下鉄構内の通路がいつもとは異なり、かなり暗くなっていて安心して歩けない、ということをお聞きしました。照明の部分消灯や下りエスカレーター停止など、節電のためとはいえ、高齢者や障害を抱える人には辛い状況となっているようです。また、エスカレーターの設置により、狭くなってしまった階段に人が集中し、混雑がよけいひどくなるという皮肉な状況も見うけられます。節電は避けて通れない状況であることは理解できますが、それで困っている人もいることを認識し、我慢すべきことの優先順位や、声無き人のことも十分考慮したうえで実施されているのでしょうか？節電という大義名分だけで安易に行動してしまわないよう、十分配慮することを忘れないよう注意したいと思います。

被災地では家族を亡くされた人たちが自ら元気を出すために、敢えて花見の会を開くなど、復興に向け心を奮い立たせようとされる方々の動きも伝わってきます。頑張らなくてはいけない時期かもしれませんが、長期にわたることが予測されるので、無理なく継続できることが大切だと思います。無理のしわ寄せがもっとも弱い人々に集中しないことを願い、うまく助けあっていくことができればと思っています。（蔦）

IAUD Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例等の情報をお寄せください。また、国内外の UD 関連イベント、シンポジウム等の開催情報もお知らせください。ご連絡は、news@iaud.net へ直接、メールをお送りいただくか、事務局あるいは情報交流センターまでお問い合わせいただいても結構です。

無断転載禁止

IAUD Newsletter vol.4 No.01
2011 年 4 月 28 日発行
国際ユニヴァーサルデザイン協議会

事務局 : 225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110
電話: 045-901-8420 FAX: 045-901-8417
e-mail: info@iaud.net
情報交流センター: 104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9
(IAUD サロン) トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話: 03-5541-5846 FAX: 03-5541-5847
e-mail: salon@iaud.net